

水稻 除草剤一覧

1. 表示法と使用上の注意事項

(1) 作期：普…普通期 早…早期 共…共通

(2) 適用雑草：表層剥離は「アオミドロ・藻類による表層剥離」を示す。

オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤との組み合わせで使用する。

(3) 移植栽培で除草効果および薬害の面から使用を避けるべき事項を次のとおり略記する。

- ・漏水田：減水深が2cm/日以上 of 漏水の大きな水田
- ・深水：極端な深水となった水田
- ・軟弱苗：軟弱な苗を移植した水田
- ・強還元田：未熟有機物多用田、透水不良田などの強還元田
- ・浅植え：極端な浅植えの水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- ・冷水：冷水かけ流し条件が加わる中山間地帯

(4) 登録内容は、2020年7月1日現在

(5) 本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。

(6) 剤型については、Ⅱ.除草剤による防除を参照。

[参考]

雑草の葉齢の標準的進捗（農産部）

代かき 後日数	早期栽培（4月下旬植）			普通期栽培（6月中～下旬植）			
	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ウリカワ
5日	発生前	発生前	発生前	0.5～1.2	発生始	発生始	発生始
7	発生始	発生前	発生始	1.2～2.0	1.0～1.5	1.0～1.5	1.0～1.5
10	0.5～1.0	発生始	0.5～1.0	2.0～2.5	1.5～2.0	1.5～2.0	2.0～2.5
12	1.0～1.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.5～3.2	2.5～3.0	2.5～3.0	3.0～3.5
15	1.5～2.0	1.0～1.5	2.0～2.5	3.2～3.8	3.0～4.0	3.0～4.0	3.5～5.0
20	2.0～2.5	1.5～2.5	2.5～3.5	3.8～4.5	4.0～5.0	4.0～5.0	5.0～6.5

注) 単位は葉齢

2. 農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

2. 除草体系

(1) 移植栽培

下表を参考にして地域や前年までの雑草防除体系を考慮し、最も効果的な防除体系を選ぶ。

雑草の種類		1回目	2回目
一年生 イネ科	ノビエ	一発処理剤	シハロップ、フチルを含む 中後期剤
	アゼガヤ		
多年生	セリ	対象雑草に適用の ある一発処理剤	2,4-PA、MCPA、ハノ キスラム、ベンタゾンを含 む中後期剤
	クログワイ		
	コウキヤガラ		
SU 抵抗性	イヌホタルイ	非SU剤あるい は、ピラクロル、クロメ プロップ、ベンゾビシク ロン、プロモフチド等を 含む一発処理剤	
	アゼナ		
	コナギ		

注) 1 2回目は雑草の発生が多い場合に処理する。

2 薬剤処理時期は雑草や水稻の生育ステージを考慮して決める。

3 薬剤によって処理時期が適期内でも遅い場合にコナギなどの広葉雑草が問題になることがある。広葉雑草の多発生が予想される場合には、適期内でも早い時期に処理を行い、除草剤一覧を参考にして除草剤を選定する。

(2) 直播栽培

ア 乾田直播

処理時期	乾田期 (播種直後～ イネ出芽前)	乾田期(播種後 10 日以降) ～入水 5 日前	入水後
除草剤名	サターンバアロ 乳剤	クリンチャーバスME液剤 クリンチャーEW	直播水稻に登録のある 初中期一発処理剤

注) 播種前に雑草が多い場合は、耕起前日までに非選択性除草剤を使用する。

イ 湛水直播

処理時期	播種直後～ ノビエ 1 葉期	イネ 1 葉期～ノビエ 2 葉期	生育中～後期
除草剤名	サンバード粒剤 プレキープ 1 キ ロ粒剤	直播水稻に登録のある 一発処理剤	直播水稻に登録のある 中後期除草剤

3. 移植栽培

2020年7月1日現在

(1) 移植後生育初期（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
移植後生育初期	ベクサーフロアブル (1999)	ベントキサゾン 2.9
	ホットコンビフロアブル (2015)	テニルクロール 4.0
		ベンゾピシクロン 4.0
	ユニハーブフロアブル (1995)	ブレチラクロール 5.0 ベンゾフェナップ 20.0

(2) 初期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初期一発処理	クサホープD粒剤 (1998)	ジメタメトリン 0.20
		ピラゾレート 6.0
		ブレチラクロール 1.5
	スラッシャ1キロ粒剤 (2001)	ジメタメトリン 0.60
		ピラゾレート 12.0
		ブレチラクロール 4.5
ナイスショットジャンボ (2002)	プロモブチド 6.0	
	カフェンストロール 4.2	
	ピラゾレート 18.0	
マキシーMX1キロ粒剤 (2013)	プロモブチド 18.0	
	ブレチラクロール 4.2	
		メソトリオン 0.60

3. 移植栽培

2020年7月1日現在

(3) 初・中期一発処理 (非SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	アシュラフロアブル (2020)	トリアファモン 0.96 ピラクロニル 3.8 ベンゾピシクロン 3.8
	イネキングジャンボ (2011)	ピラクロニル 4.0 ピラゾレート 20.0 ベンゾピシクロン 4.0
	イネキングフロアブル (2011)	ピラクロニル 3.6 ピラゾレート 20.0 ベンゾピシクロン 4.0
	イネキング1キロ粒剤 (2010)	ピラクロニル 2.0 ピラゾレート 10.0 ベンゾピシクロン 2.0
	エーワンジャンボ (2012)	オキサジクロメホン 2.0 テフリルトリオン 10.0
	エーワンフロアブル (2013)	オキサジクロメホン 1.2 テフリルトリオン 6.0
	エーワン1キロ粒剤 (2011)	オキサジクロメホン 0.80 テフリルトリオン 3.0
	エンペラー1キロ粒剤 (2020)	ピラクロニル 2.0 ピリミノバックメチル 0.75 フェンキノトリオン 3.0
	カウンスルエナジージャンボ/ アバンティジャンボ (2020)	トリアファモン 1.2 フェンキノトリオン 7.5 フェントラザミド 7.5
	カウンスルエナジーフロアブル/ アバンティフロアブル (2020)	トリアファモン 0.95 フェンキノトリオン 5.7 フェントラザミド 5.7
	カウンスルエナジー1キロ粒剤/ アバンティ1キロ粒剤 (2020)	トリアファモン 0.50 フェンキノトリオン 3.0 フェントラザミド 3.0
	ガンガンジャンボ (2017)	ピリミスルファン 2.0 フェノキサスルホン 8.0
	ガンガン豆つぶ250 (2017)	ピリミスルファン 2.0 フェノキサスルホン 8.0
	ガンガン1キロ粒剤 (2017)	ピリミスルファン 0.5 フェノキサスルホン 2.0
	キマリテジャンボ (2017)	イブフェンカルバゾン 8.3 テフリルトリオン 10.0
	キマリテフロアブル (2017)	イブフェンカルバゾン 5.0 テフリルトリオン 6.0
	キマリテ1キロ粒剤 (2017)	イブフェンカルバゾン 2.5 テフリルトリオン 3.0
	ジェイフレンドジャンボ (2019)	ピラクロニル 0.75 テフリルトリオン 7.5 オキサジクロメホン 5.0
	ジェイフレンドフロアブル (2018)	ピラクロニル 3.8 テフリルトリオン 5.7 オキサジクロメホン 0.57
	ジェイフレンド1キロ粒剤 (2018)	ピラクロニル 2.0 テフリルトリオン 3.0 オキサジクロメホン 0.30
	ジャイロ1キロ粒剤 (2019)	イブフェンカルバゾン 2.5 ベンゾピシクロン 3.0 ベンゾフェナップ 8.0
	ピラクロエースフロアブル/ カリュードフロアブル (2015)	ピラクロニル 3.6 ベンゾピシクロン 4.0 ベンゾフェナップ 14.5
	ピラクロエース1キロ粒剤/ カリュード1キロ粒剤 (2018)	ピラクロニル 2.0 ベンゾピシクロン 2.0 ベンゾフェナップ 8.0
	プライオリティ1キロ粒剤 (2020)	トリアファモン 0.5 フェンキノトリオン 3.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	ジェイソウルジャンボ (2021)	シクロピリモレート 6.7 ピラゾレート 13.3 フェントラザミド 6.7
	ジェイソウルフロアブル (2021)	シクロピリモレート 5.5 ピラゾレート 11.0 フェントラザミド 4.50
	ジェイソウル1キロ粒剤 (2021)	シクロピリモレート 3.0 ピラゾレート 6.0 フェントラザミド 3.00
	ジャンダルムMX豆つぶ250 (2021)	ピリフタリド 7.2 ピリミスルファン 2.0 メソトリオン 3.6
	ジャンダルムMXジャンボ (2021)	ピリフタリド 7.2 ピリミスルファン 2.0 メソトリオン 3.6
	ジャンダルムMX1キロ粒剤 (2021)	ピリフタリド 1.8 ピリミスルファン 0.5 メソトリオン 0.9
	ポデーガードジャンボ (2012)	テフリルトリオン 7.5 フェントラザミド 7.5
	ポデーガードフロアブル (2013)	テフリルトリオン 5.8 フェントラザミド 5.8
	ポデーガード1キロ粒剤 (2011)	テフリルトリオン 3.0 フェントラザミド 3.0
	ポッシブル1キロ粒剤 (2014)	テフリルトリオン 3.0 メフェナセット 12.0
	ムソウジャンボ (2014)	ピリミスルファン 2.0 メフェナセット 40.0
	ムソウ豆つぶ250 (2017)	ピリミスルファン 2.0 メフェナセット 40.0
	ムソウ1キロ粒剤 (2012)	ピリミスルファン 0.50 メフェナセット 12.0
	モーレツ1キロ粒剤 (2017)	ピラクロニル 2.0 ベンゾピシクロン 2.0 ベンフラセート 5.0
	ヤイバジャンボ (2013)	ピリミスルファン 2.0 フェントラザミド 12.0
	ヤイバ1キロ粒剤 (2012)	ピリミスルファン 0.50 フェントラザミド 3.0
	ヤブサメ1キロ粒剤 (2018)	ピラクロニル 1.5 ピリミスルファン 0.5 フェノキサスルホン 1.50

(4) 初期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	イノーバDX1キロ粒剤51 (2008)	ダイムロン 4.5 フェントラザミド 2.0 プロモブチド 7.5 ペンシルフロノメチル 0.51
	カットダウン1キロ粒剤 (2016)	イマズスルフロノ 0.9 ピラクロニル 2.0
	クサトリエースLジャンボ (1999)	カフェンストール 7.0 ダイムロン 15.0 ペンシルフロノメチル 1.7
	クラッシュEXジャンボ (2001)	イマズスルフロノ 1.8 カフェンストール 4.2 ダイムロン 20.0
	ドウジガード1キロ粒剤51 (2013)	クミルロン 12.0 ペンシルフロノメチル 0.51 ペントキサゾン 3.9
	マサカリLジャンボ (2003)	インダノファン 2.8 クロメブロッツ 7.0 ペンシルフロノメチル 1.0
	ヨシキタ1キロ粒剤 (2010)	イマズスルフロノ 0.90 プロモブチド 9.0 ペントキサゾン 3.9

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	アールタイプジャンボ シュナイデンジャンボ (2017)	ピラゾレート 25.0 ベンゾピシクロン 5.0 メタゾスルフロン 1.5
	アールタイプフロアブル シュナイデンフロアブル (2017)	ピラゾレート 18.2 ベンゾピシクロン 3.6 メタゾスルフロン 1.1
	アールタイプ1キロ粒剤 (2016)	ピラゾレート 10.00 ベンゾピシクロン 2.00 メタゾスルフロン 0.6
	アクシズMX1キロ粒剤 (2014)	ピリフタリド 2.4 メソトリオン 0.90 メタゾスルフロン 0.80
	アップレZジャンボ (2017)	ピラクロニル 5.0 プロピリスルフロン 2.25 プロモブチド 22.5
	アップレZフロアブル (2017)	ピラクロニル 3.7 プロピリスルフロン 1.7 プロモブチド 16.8
	アップレZ1キロ粒剤 (2017)	ピラクロニル 2.0 プロピリスルフロン 0.9 プロモブチド 9.0
	アピログロウMXジャンボ (2016)	ピラゾスルフロンメチル 0.75 ピリフタリド 3.75 プレチラクロール 11.25 メソトリオン 2.25
	アピログロウMX1キロ粒剤 (2016)	ピラゾスルフロンメチル 0.30 ピリフタリド 1.50 プレチラクロール 4.50 メソトリオン 0.90
	アピロトップMXLジャンボ (2013)	ピリフタリド 3.0 プレチラクロール 9.0 ペンシルフロロンメチル 1.02 メソトリオン 1.8
	アピロトップMX1キロ粒剤51 (2006)	ピリフタリド 1.2 プレチラクロール 4.6 ペンシルフロロンメチル 0.51 メソトリオン 0.90
	アピロトップ1キロ粒剤51 (2006)	ピリフタリド 1.8 プレチラクロール 1.8 ペンシルフロロンメチル 0.51
	イッボンDジャンボ (2013)	ダイムロン 8.0 ピラクロニル 4.0 プロモブチド 12.0 ペンシルフロロンメチル 1.0
	イッボンDフロアブル (2015)	ダイムロン 8.0 ピラクロニル 4.0 プロモブチド 12.0 ペンシルフロロンメチル 1.0
	イッボンD1キロ粒剤51 (2015)	ダイムロン 4.0 ピラクロニル 2.0 プロモブチド 6.0 ペンシルフロロンメチル 0.51
	ウイナーLジャンボ (2015)	イブフェンカルバゾン 5.0 プロモブチド 18.0 ペンシルフロロンメチル 1.02
	ウイナーLフロアブル (2015)	イブフェンカルバゾン 5.0 プロモブチド 18.0 ペンシルフロロンメチル 1.0
	ウイナー1キロ粒剤51 (2015)	イブフェンカルバゾン 2.5 プロモブチド 9.0 ペンシルフロロンメチル 0.51
	ウルティモZジャンボ (2021)	シクロピリモレート 8.6 ピラゾレート 17.1 プロピリスルフロン 2.57
	ウルティモZフロアブル (2021)	シクロピリモレート 5.5 ピラゾレート 11.0 プロピリスルフロン 1.65
	ウルティモZ1キロ粒剤 (2021)	シクロピリモレート 3.0 ピラゾレート 6.0 プロピリスルフロン 0.9
	カイリキZジャンボ (2021)	イブフェンカルバゾン 8.3 テフリルトリオン 8.3 プロピリスルフロン 3.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	カウンスルコンプリートジャンボ /ポデーガードプロジャンボ (2018)	テフリルトリオン 10.0 トリアファモン 1.60
	カウンスルコンプリートフロアブル /ポデーガードプロフロアブル (2018)	テフリルトリオン 5.8 トリアファモン 0.97
	カウンスルコンプリート1キロ粒剤 /ポデーガードプロ1キロ粒剤 (2018)	テフリルトリオン 3.00 トリアファモン 0.5
	カチボシLジャンボ (2016)	イブフェンカルバゾン 8.30 テフリルトリオン 6.7 ペンシルフロロンメチル 1.7
	カチボシLフロアブル (2016)	イブフェンカルバゾン 5.00 テフリルトリオン 4.0 ペンシルフロロンメチル 1.0
	カチボシL1キロ粒剤51 (2016)	イブフェンカルバゾン 2.50 テフリルトリオン 2.0 ペンシルフロロンメチル 0.51
	キンジャーZジャンボ (2014)	ピラゾレート 30.0 プロピリスルフロン 1.80
	キンジャーZフロアブル (2014)	ピラゾレート 27.3 プロピリスルフロン 1.6
	キンジャーZ1キロ粒剤 (2013)	ピラゾレート 15.0 プロピリスルフロン 0.90
	キラリ1キロ粒剤 (2021)	イマズスルフロン 0.9 ピラクロニル 2.0 テフリルトリオン 2.0
	銀河ジャンボ (2015)	ダイムロン 25.0 ピラクロニル 5.0 メタゾスルフロン 2.5
	銀河フロアブル (2015)	ダイムロン 20.0 ピラクロニル 4.0 メタゾスルフロン 2.0
	銀河1キロ粒剤 (2014)	ダイムロン 10.0 ピラクロニル 2.0 メタゾスルフロン 1.0
	クサトリーBSXジャンボL (2015)	フェントラザミド 10.0 ペンシルフロロンメチル 1.7 ベンゾピシクロン 6.7
	クサトリーBSXフロアブルL (2015)	フェントラザミド 5.8 ペンシルフロロンメチル 1.0 ベンゾピシクロン 3.8
	クサトリーBSX1キロ粒剤51 / ピックシュアZ1キロ粒剤51 (2015)	フェントラザミド 3.0 ペンシルフロロンメチル 0.51 ベンゾピシクロン 2.0
	月光ジャンボ (2016)	メタゾスルフロン 2.5 ダイムロン 37.50 カフェンストロール 7.5
	月光フロアブル (2016)	メタゾスルフロン 2.0 ダイムロン 30.00 カフェンストロール 5.4
	月光1キロ粒剤 (2016)	メタゾスルフロン 1.0 ダイムロン 15.00 カフェンストロール 3.0
	ゴエモン1キロ粒剤 (2015)	イマズスルフロン 0.9 イブフェンカルバゾン 2.5 プロモブチド 9.0
	コメットフロアブル (2019)	テフリルトリオン 4.0 ピラクロニル 4.0 メタゾスルフロン 1.2
	コメットジャンボ (2014)	テフリルトリオン 6.7 ピラクロニル 6.6 メタゾスルフロン 2.0
	コメット顆粒 (2017)	メタゾスルフロン 7.5 テフリルトリオン 25.0 ピラクロニル 25.0
	コメット1キロ粒剤 (2015)	メタゾスルフロン 0.6 テフリルトリオン 2.0 ピラクロニル 2.0

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

2020年7月1日現在

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	
初・ 中期 一発 処理	サラブレットKAIジャンボ (2015)	イマズスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	2.25 0.75 5.0
	サラブレットKAIフロアブル (2015)	イマズスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	1.7 0.57 3.8
	サラブレットKAI 1キロ粒剤 (2014)	イマズスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル	0.9 0.4 2.0
	シグナスジャンボ (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	2.0 6.7 10.0
	シグナスフロアブル (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	1.2 4.0 6.0
	シグナス1キロ粒剤 (2018)	メタゾスルフロン テフリルトリオン フェントラザミド	0.6 2.0 3.0
	忍ジャンボ (2014)	イマズスルフロン ピラクロニル ベンゾピシクロン	4.5 10.0 10.0
	忍フロアブル (2014)	イマズスルフロン ピラクロニル ベンゾピシクロン	1.8 3.9 3.9
	忍1キロ粒剤 (2013)	イマズスルフロン ピラクロニル ベンゾピシクロン	0.90 2.0 2.0
	シリウスエグザジャンボ (2015)	オキサジクロメホン ピラクロニル ピラゾスルフロンエチル ベンゾピシクロン	1.4 6.6 1.0 6.7
	シリウスエグザフロアブル (2017)	オキサジクロメホン ピラクロニル ピラゾスルフロンエチル ベンゾピシクロン	0.8 4.0 0.6 4.0
	シリウスエグザ1キロ粒剤 (2013)	オキサジクロメホン ピラクロニル ピラゾスルフロンエチル ベンゾピシクロン	0.40 2.0 0.30 2.0
	ゼータタイガージャンボ/ ドラゴンホークZジャンボ (2018)	プロピリスルフロン プロモプチド ペントキサゾン	3.0 30.0 6.67
	ゼータタイガーフロアブル/ ドラゴンホークZフロアブル (2018)	プロピリスルフロン プロモプチド ペントキサゾン	1.7 16.8 3.70
	ゼータタイガー1キロ粒剤 (2017)	プロピリスルフロン プロモプチド ペントキサゾン	0.9 9.0 2.0
	ゼータハンマー1キロ粒剤 (2018)	ペントキサゾン プロピリスルフロン	2.0 0.9
	ゼータプラスジャンボ (2021)	フェンキノトリオン プロピリスルフロン	15.0 4.5
	ゼータプラスフロアブル (2021)	フェンキノトリオン プロピリスルフロン	5.8 1.7
	ゼータプラス1キロ粒剤 (2021)	フェンキノトリオン プロピリスルフロン	3.0 0.9
	ゼータワンジャンボ (2012)	プロピリスルフロン	2.25
	センイチMXジャンボ フルパワーMXジャンボ (2017)	ピラクロニル フルセトスルフロン メソトリオン	4.0 0.4 1.8
	センイチMX 1キロ粒剤 (2014)	ピラクロニル フルセトスルフロン メソトリオン	2.0 0.2 0.9

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	
初・ 中期 一発 処理	天空ジャンボ (2018)	メタゾスルフロン ベンゾピシクロン フェントラザミド	2.0 10.0 10.0
	天空フロアブル (2018)	メタゾスルフロン ベンゾピシクロン フェントラザミド	1.2 6.0 6.0
	天空1キロ粒剤 (2018)	メタゾスルフロン ベンゾピシクロン フェントラザミド	0.6 3.0 3.0
	ドリフ1キロ粒剤 (2021)	トリアファモン フェントラザミド エトキシスルフロン クロムプロップ	0.4 2.0 0.17 4.5
	パッチリジャンボ (2011)	イマズスルフロン ピラクロニル プロモプチド	2.25 5.0 22.5
	パッチリフロアブル (2011)	イマズスルフロン ピラクロニル プロモプチド	1.7 3.7 16.3
	パッチリ1キロ粒剤 (2010)	イマズスルフロン ピラクロニル プロモプチド	0.90 2.0 9.0
	パッチリLXジャンボ (2017)	ピラクロニル イマズスルフロン プロモプチド オキサジクロメホン	5.0 2.25 22.5 0.75
	パッチリLXフロアブル (2016)	ピラクロニル イマズスルフロン プロモプチド オキサジクロメホン	3.7 1.7 16.3 0.56
	パッチリLX1キロ粒剤 (2017)	ピラクロニル イマズスルフロン プロモプチド オキサジクロメホン	2.0 0.9 9.0 0.4
	パットフルLジャンボ (2002)	オキサジクロメホン ピリミノバックメチル ペンシルフロンメチル	1.6 1.2 2.0
	ビクトリーZジャンボ メガゼータジャンボ (2012)	ピラクロニル プロピリスルフロン	5.0 2.25
	ビクトリーZフロアブル メガゼータフロアブル (2015)	ピラクロニル プロピリスルフロン	3.9 1.7
	ビクトリーZ 1キロ粒剤 メガゼータ1キロ粒剤 (2013)	ピラクロニル プロピリスルフロン	2.0 0.90
	ブルゼータジャンボ (2019)	プロピリスルフロン ベンゾピシクロン	4.5 10.0
	マスラオジャンボ (2021)	イマズスルフロン ピリミノバックメチル フェンキノトリオン	4.5 3.0 15.0
	マスラオフロアブル (2021)	イマズスルフロン ピリミノバックメチル フェンキノトリオン	1.7 1.2 5.8
	マスラオ1キロ粒剤 (2020)	イマズスルフロン ピリミノバックメチル フェンキノトリオン	0.90 0.60 3.0
	ライジンパワーフロアブル (2016)	インダノファン ピラクロニル ベンゾピシクロン	2.3 2.90 5.7
	ライジンパワー1キロ粒剤 (2016)	インダノファン ピラクロニル ベンゾピシクロン	1.2 1.50 3.0

(6) 生育中後期

2020年7月1日現在

除草剤名 (登録年)	成分 (%)	適用雑草											使用上の注意					
		ノビエ	水田一年生雑草	マツバ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	コウキヤガラ	オモダカ	ヘラオモダカ	セリ		クログワイ	表層剥離			
アレイルSC (2021)	ハロスルフロメチル メタゾスルフロ	1.8 2.4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1. 散布後少なくとも2日間(湛水処理は3日間)はそのままの状態を保ち、入水はしない。散布後、7日間は落水・かけ流しはしない。 2. いぐさの栽培予定水田では使用しないこと。
アトカラSジャンボMX/ セカンドショットSジャンボMX (2018)	アジムスルフロ ペノキスラム メソトリオン	0.36 0.36 2.0	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●		
グラスジMナトリウム粒剤 (2005)	ペンタゾンナトリウム塩 MCPAエチル	11.0 1.2	●	●	●	●	●										1. バサグラン粒剤の1～3に準ずる。	
グラスジMナトリウム液剤 (2005)	ペンタゾンナトリウム塩 MCPAナトリウム塩	33.0 6.0	●	●	●	●	●							●	●	●	1. バサグラン粒剤の1～3に準ずる。 2. 加圧噴霧器等で散布すると除草効果は一層高くなるが、水稻に葉害(葉枯れ、生育抑制、筒状葉等)が発生することがあるので、必ず2,4-D専用の散布器を使用する。	
クリンチャー1キログ剤 (1998)	シハロホップブチル	1.8	●														● アゼガヤ、キシウズズメノヒエに適用あり	1. 散布する前に水の出入りを止め、湛水のままムラのないよう均一に散布する。散布後少なくとも3～4日間は湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、落水、かけ流しはしない。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場合は、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3. キシウズズメノヒエの防除は展開葉が水面に接する条件で使用する。
クリンチャージャンボ (1999)	シハロホップブチル	1.8	●															1. クリンチャー1キログ剤の1～2に準ずる。
クリンチャーEW (2000)	シハロホップブチル	30.0	●														● アゼガヤ、キシウズズメノヒエに適用あり	1. 展着剤を加用して散布する。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場合は、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3. 落水条件で散布する際は、撒きむらがないように均一に散布してください。 4. 湛水条件で散布する際は、散布する前に水の出入りを止め、湛水のまま均一に散布する。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 5. どうもこし、ソルガム等イネ科作物及びキャベツ等の隣接田で使用する場合はこれらにかからないよう注意する。
クリンチャーバスマE液剤 (1997)	シハロホップブチル ペンタゾンナトリウム塩	3.0 20.0	●	●	●	●	●	●	●					●			キシウズズメノヒエに適用あり	1. 高温条件では葉の白斑や葉枯れなどの葉害を生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合には、夕方に散布するなど高温条件を避け、出来るだけ多めの希釈水量を用い、低濃度液を水稻にかからないように散布する。 2. 動力噴霧器での散布は葉害を生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理することが望ましい。 3. 散布する前に落水状態にして水の出入りを止め(落水出来ない場合は出来るだけ浅水状態にして)ムラのないように均一に散布する。 4. 散布後少なくとも3日間(浅水処理の場合は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 5. ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリでは発生盛期から増殖中期までが散布適期である。
ダバードジャンボ (2021)	ダイムロン ピラクロニル バンゾピシクロ メタゾスルフロ	25.0 5.0 5.0 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. いぐさの栽培予定水田では使用しない。
シアグMF 1キログ剤 (2020)	ピリミスルファン メタミホップ MCPB	0.60 0.90 2.40	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●			1. 散布に当たっては、水の出入りを止めて5cm以上の湛水をし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(3～5cm)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は有効な前処理剤との組み合わせで使用する。 3. 散布後の急激な気温の上昇により葉害を生じることがある。

(6) 生育中後期

2020年7月1日現在

除草剤名 (登録年)	成分 (%)	適用雑草											使用上の注意		
		ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ		ク ロ グ ワ イ	表 層 剥 離
テッケン1キロ粒剤 /ニトウリュウ1キロ粒剤 (2015)	ベノキススラム ペンゾピシクロン	0.5 2.0	●	●	●	●	●	●					●		1. 平成27年8月1日現在で砂壌土での登録はない。
トドメMF乳剤 (2019)	メタミホップ	4.9	●												1. 湛水散布または落水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場合は、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
トドメMF1キロ粒剤 (2019)	メタミホップ	1.4	●												1. 湛水散布。 2. 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する場合は、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
粒状水中2, 4-D (1958)	2, 4-PAエチル	1.4													1. 湛水状態で散布する。漏水田では使用を避け、散布後は水の出入りを止めて、2日間以上湛水状態を保つ。 2. 粒剤は雑草への付着が少ないので効果が劣る。また遅効性なので、3～5日程度散布時期を早める。
2, 4-Dアミン塩 (1999)	2, 4-PAジメチルアミン	49.5													1. 薬剤が雑草に良く付着するよう十分落水して、2, 4-D専用の散布器で出来るだけ株間に均一に散布する。 2. 降雨前の散布はさける。 3. 散布後2～3日間は落水のままとし、灌水しない。 4. 噴霧器で散布すると除草効果は一層高くなるが、水稻の生育抑制も大きいので、生育旺盛な場合を除いては使用しない。 5. マツバイ、ホタルイ、ウリカワの多発田では、使用量の範囲内で散布量を多くする。
バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) (1988)	ベンタゾンナトリウム塩	11.0		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 一年生広葉やカヤツリグサ科雑草および多年生広葉雑草に優れた効果を示す。イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえる。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 2. 十分に落水して散布する。散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 3. 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。
バサグラン液剤 (ナトリウム塩) (1988)	ベンタゾンナトリウム塩	40.0		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. バサグラン粒剤の1～3に準ずる。 2. 重複散布は葉害のおそれがあるので、均一散布につとめる。
フォローアップ1キロ粒剤 ワイドアタックD1キロ粒剤 (2013)	ダイムロン ベノキススラム	10.0 0.60	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 散布する前に湛水状態(水深3～5cm)にして水の出入りを止め、ムラのないよう均一に散布する。 2. 散布後少なくとも3～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
モゲトン粒剤 (1972)	ACN	9.0				●	●	●	●	●	●	●	●		1. 河川、池などに流れ込んだ場合、魚類に被害を及ぼすので決して流出しないよう注意する。 2. 水稻3葉期以下の時期では葉害の恐れがあるので使用しない。
レプラスジャンボ (2021)	ジメタメトリン ダイムロン テフリルトリオン メタゾスルフロン	2.5 25.0 7.5 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 散布に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態を保つ。 2. いぐさの栽培予定水田では使用しない。 3. 雑草の発生前から生育初期に有効なため、ノビエ4葉期までに時期を失しないように散布する。
ワイドアタックSC (2012)	ベノキススラム	3.6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 散布する前に落水状態(落水できない場合はごく浅水状態にして)にして水の出入りを止め、ムラのないように均一に散布する。 2. 散布後7日間はそのままの状態を保ち、入水や落水、かけ流しをしない。 3. 散布時期が遅くなると生育が進んだ雑草が多くなるので、登録範囲内で早めに散布する。 4. 効果の発現は遅く、効果の完成まで30～40日要することがある。
ワイドショット1キロ粒剤 (2018)	ベノキススラム テフリルトリオン	0.50 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
ワイドパワー粒剤 (2014)	ベノキススラム ベンタゾン	0.12 11.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		1. 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。

4. 乾田直播

2020年7月1日現在

処 理 法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用雑草											使用上の注意				
			ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ		ク ロ グ ワ イ	表 層 剥 離		
乾 田 期	サターンバアロ乳剤 (1973)	プロメトリン 5.0 ベンチオカーブ 50.0	●	●	●													1. 播種後湿潤状態で処理した方が効果的である。 2. 覆土が浅い場合には出芽不良などの薬害を生じることがあるので、覆土はていねいに2～3cm程度行う。 3. 希釈水量が多いほど除草効果は高い。
	ラウンドアップマックスロード (2011)	グリホサートカリウム塩 48.0		一年生及び多年生雑草に適用あり												1. 播種後に使用する場合は、耕起直後～出芽前に早めに散布する。 2. 少量散布の場合は、少量散布用ノズルを使用する。		
乾 田 期 く 入 水 後	クリンチャーバスME液剤 (1997)	シハロホップブチル 3.0 ベンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●										1. 移植に準ずる。
	クリンチャーEW (2000)	シハロホップブチル 30.0	●	●														1. 移植に準ずる。 ※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草

5. 湛水直播

2020年7月1日現在

処 理 法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用雑草											使用上の注意				
			ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ		ク ロ グ ワ イ	表 層 剥 離		
播 種 直 後	サンバード粒剤 (1986)	ピラゾレート 10.0	●	●	●	●	●							●				1. 雑草の葉令が進むと効果が低下するので、播種直後～5日に使用する。 2. 除草効果を高めるため芽干し開始までは湛水する。芽干し期間は、雑草の発生を抑制するため、播種後7～10日頃、期間は1～3日程度とする。
	プレキープ1キロ粒剤 (2016)	ピラゾキシフェン 1.5 ベンゾピシクロン 0.30	●	●	●	●	●	●	●									1. 非SU剤 2. ノビエ1.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。 4. 表面散播でも葉害が少ない。
初 期 一 発	ウルフエース1キロ粒剤51 (2005)	ベンスルフロンメチル 0.51 ベンチオカーブ 15.0 メフェナセット 3.0	●	●	●	●	●	●	●					●		●	1. SU剤	
	トップガンLフロアブル (2009)	ピリミノバックメチル 0.56 プロモブチド 17.0 ベンスルフロンメチル 0.93 ペントキサゾン 2.8	●	●	●	●	●	●						●		●	1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。	
	トップガンGT1キロ粒剤51 (2009)	ピリミノバックメチル 0.45 プロモブチド 9.0 ベンスルフロンメチル 0.51 ペントキサゾン 2.0	●	●	●	●	●	●						●			1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。	
中 後 期	クリンチャー1キロ粒剤	シハロホップブチル 1.8	●														1. 移植に準ずる。	
	クリンチャーEW	シハロホップブチル 30.0	●	●													1. 移植に準ずる。 ※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草	
	クリンチャーバスME液剤	シハロホップブチル 3.0 ペンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●									1. 移植に準ずる。	
	2,4-Dアミン塩	2,4-PAジメチルアミン 49.5															1. 移植に準ずる。 水田雑草（イネ科を除く）に適用あり	

6. 除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果									処理適期幅	持続効果	土壌中の移動性
						ノビエ	カヤツクサ	コナギ	その他広葉	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	クダマ	トゲカ			
MCPA 2,4-PA	フェノキシ系	茎葉、根	ホルモン型移行性	ホルモン作用の攪乱	ロール葉 下葉枯れ	×	○	○	○	◎	○	○	—	○	雑草生育期(コナギ2~5L)	長	小
アンムスフロロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前~発生盛期	長	中
イプフェンカルバゾロン	トリアゾリン系	根部、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○~◎	○	○	×	○	×	△	—	極長	極小
イマゾスフロロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	発生前~発生盛期	長	小
インダノファン	オキシラン系	根、幼芽部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○~◎	△~○	×	×	—	—	発生前~ノビエ2.5L	長	小
エスプロカルブ	チオカーバメイト系	根、幼芽(基部)	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	△~○	△~○	○	×	△	×~△	×	発生前~ノビエ2.5L	長	小
エトベンサニト	酸アミド系	根>幼芽>茎葉	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	×	△	×	×	×	×	×	×	発生前~ノビエ2.5L	長	小
オキサジクロメホン	オキサジロン系	根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	発生前~ノビエ4L	長	中
カフェンストール	トリアゾール系	根、基部、茎葉	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○~◎	○	△~○	×	△~○	×	×	発生前~ノビエ2.5L	極長	極小
カルフェントラゾンエチル	トリアゾリン系	茎葉部	—	クロフィル生合成阻害	生育抑制 葉鞘褐変	×	○	◎	◎	△	○	×	○	△	—	中	小
キノクラミン(ACN)	キノ系	茎葉(根)	接触性	光合成阻害	葉鞘褐変 葉身白化	×	△	△~○	△~○	×	◎	×	×	○	発生始~盛期	短	小
クミロン	尿素系	根部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	◎	○~◎	×	—	長	極小
クロムプロップ	フェノキシ系	基部>根=茎葉	ホルモン型移行性	ホルモン作用の攪乱	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	○	×	—	—	発生前~発生始	長	中
シクロスルファミロン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前~発生盛期	長	小~中
シハロホップブチル	フェノキシプロピオン酸系	茎葉	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	~ノビエ4L(粒) ~ノビエ6L(乳)	短	小
ジメタメトリン	トリアジン系	根、幼芽	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	△	◎	◎	◎	○	△	○	—	—	発生前~ノビエ1L	極長	小
シメトリン	トリアジン系	根	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	○	◎	◎	◎	△	△	×	×	×	発生前~ノビエ2L	長	小
タイムロン	尿素系	根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	○	○	×	発生前~発生始	極長	小
テニルクロール	酸アミド系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	○	×	○	×	×	発生前~ノビエ2L	長	小
テフリルトリオン	トリケトン系	根、基部	移行性	クロフィル生合成阻害	白化	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	—	長	中

6. 除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果									処理適期幅	持続効果	土壌中の移動性
						ノビエ	カヤツクサ	コナギ	その他広葉	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	クワワイ	モダカ			
トリアフェモン	スルホンアミド系	根、基部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ5L	長	中
ハロスフロメチル	スルホニルウレア系	根≧幼芽≧茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	△ ○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ビラクロニル	—	根、基部>茎葉	接触性	クロフィル生合成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	○	△ ○	○	○ ◎	発生前～ノビエ2L	長	極小
ビラゾキシフェン	ダiazinon系	幼芽、根	移行性	クロフィル生合成阻害	クロロシ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	×	○	発生前～ノビエ1L	長	小
ビラゾスフロエチル	スルホニルウレア系	根≧幼芽>基部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	△ ○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ビラゾレート	ダiazinon系	幼芽>根	移行性	クロフィル生合成阻害	クロロシ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	—	◎	発生前～ノビエ1L	長	小～中
ビリフタリト	ピリミジニルサリチル酸系	根部>基部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	○	×	○ ◎	△	×	○	—	—	発生前～ノビエ3L	長	極小
ビリアチカルブ	チカーバメイト系	根>基部>茎葉	移行性	物質転流阻害、老化促進	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	—	△	—	—	発生前～ノビエ1.5L	極長	極小
ピリミスルフェン	スルホンアミド系	根部、基部、茎葉部	—	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～ノビエ3L	長	中
ピリミノバックメチル	ピリミジニルカルボン酸系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ3.5L	長	中
フェノキサスロン	イソキサゾリン系	根部、茎葉基部	—	超長鎖脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	△ ○	×	△	×	×	—	極長	小
フェントラサミト	テトラゾリン系	根、幼芽部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	△	×	×	×	×	発生前～ノビエ2.5L	長	極小
ブタクロール	酸アミド系	幼芽部>根部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	○ ◎	×	○	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
ブタミホス	有機リン系	幼芽	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	△	○	○	△	×	△	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
フルセトスルフロ	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	△	◎	◎	×	○	△	発生前～ノビエ3L	長	中
プレチラクロール	酸アミド系	幼芽、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	×	○	◎	—	—	発生前～ノビエ1.5L	中～長	小
プロピリスルフロ	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ3L	長	小
プロモブチト	酸アミド系	幼芽、根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	◎	◎	△	◎	△	○ ◎	○	△	発生前～発生初期	長	中～少
ペノキサスラム	スルホンアミド系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	～ノビエ5L	中	中
ペンスフロメチル	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△ ○	◎	発生前～発生盛期	長	中

6. 除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果								処理適期幅	持続効果	土壌中の移動性	
						ノビエ	カヤツクサ	コナギ	その他広葉	ホタルイ	ウリカ	ミズカヤツリ	ククワイ				オトタカ
ベンゾヒシクロン	ダ`イジン系	根部=基部≧茎葉	移行性	クロフィル生合成阻害	クロロス	◎	◎	◎	○	◎	△	◎	△	×	発生前～ノビエ1L	長	極小
ベンゾフェナップ	ダ`イジン系	根>基部>茎葉	移行性	クロフィル生合成阻害	クロロス	○	○	◎	◎	△	◎	△	×	◎	発生前～発生始期	長	小
ベンタゾン	ダ`イジン系	茎葉、根	接触移行性	光合成阻害	葉枯れ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	雑草生育期、発生盛～増殖期	長	大
ベンチカーブ	チカーバ`メイト系	根、(幼芽)基部	移行性	チンパ`ク合成阻害	生育抑制	◎	◎	△	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ2L	長	小
ペンチキサゾン	オキサゾリジンジ`オン系	根、基部≧茎葉	接触性	クロフィル生合成阻害	葉鞘褐変生育抑制	◎	◎	◎	◎	○	△～○	○	—	—	発生前～ノビエ1.5L	長	極小
ペンフレート	ベンゾフラン系	根、幼芽部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	○	○	◎	◎	—	発生前～発生盛期	長	極小
メトリオン	トリケトン系	幼芽、茎葉	移行性	クロフィル生合成阻害	白化生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	△	○	×	△	—	長	小
メタゾ`スルフロ	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	長	中
メタミホップ	フェノキシプロピ`オン酸系	茎葉部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制葉先白化	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生始～ノビエ7L	中	小
メフェナセット	酸アミド系	幼芽、根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ3L	長	極小
モネート	チカーバ`メイト系	根、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	×	◎	△	△	発生前～ノビエ3L	長	中

出典：公益財団法人日本植物調節剤研究協会「水稻関係除草剤申請書」

注) 除草効果は◎・・・極大、○・・・大、△・・・中、×・・・小を示す。